

「人工膝関節置換術」を支援 最新鋭ロボ九州初導入

佐世保市の増田整形外科

佐世保市高砂町の増田整形外科は、膝に人工関節を取り入れる手術「人工膝関節置換術」を支援する最新鋭ロボット「CORIサージカルシステム」を、九州で初めて導入した。部分置換術や前十字靭帯温存型の手術などで精密性と正確性を高め、患者の膝関節の機能回復を向上させる狙い。

人工膝関節置換術は、変形性膝関節症や関節リウマチ、骨壊死などで膝が思うように動かない患者を対象に、膝の軟骨や骨を削って



人工膝関節置換術を支援する最新鋭ロボットの
実演を行う増田整形外科の増田賢一理事長
(増田整形外科提供)

人工関節を入れる手術。形状の再現や靭帯にかかる負荷へのバランス調整が必要で、精度が少しでも落ちると、リハビリ後でも痛みや違和感が残るといふ。CORIの導入により、増田賢一理事長は「患者の術後の経過が大幅に改善されるだろう」と期待する。

CORIは英国のスミス・アンド・ネフュー社製。赤外線カメラで膝関節の形状を読み取り、人工関節の設置位置や角度、サイズを医師がリアルタイムで確認できる。屈伸時の関節の動きも認識し、靭帯にかかる負荷も計測する。医師は1ミリ単位で骨や軟骨を削ることができ、手術の精度が大きく向上するという。

増田理事長によると、膝を傷めて歩行が難しくなると、運動不足により生活習慣が悪化したり、社会とながる機会が減少したりすることによって、認知症の進行にもつながるといふ。増田理事長は「遠くに行かなくても、県内で最新の医療を受けられる機会をつくりたかった。CORIの導入は、健康寿命の増進にも寄与できる」と話している。

(岩佐遼介)